

令和2年度 幼児教育学科 FD・SD 研修会 ② 報告書

テーマ：「幼児教育学科の学生成長プログラムの構築」

日時： 令和2年12月15日（火） 15：00～17：00

場所： A205教室

担当： 百海智 森田ゆかり

参加者： 吉岡利恭 水上和子 中村明成 森田ゆかり ガート・ウエスタハウト
山田紀子 石野友子 上野高裕 三浦哲志 村上知子（書記）

目的詳細

- ・ 「入学前教育」を見直し充実した初年次教育へつなぎ、「基礎学力の向上」「豊かな感性と表現」「学び続ける姿勢」を探究し続けることができる学生成長プログラムについて検討する。
- ・ 各学科の教育課程における卒業要件の達成状況および資格取得状況から、教育課程全体を通じた学習成果の達成状況を評価する。

内容

1. 1年生担任より、今年度の「基礎教養（学びの発見）」の内容報告があった。

コロナ禍で予定していた内容が出来なかったため、状況に合わせた内容に変更した。特に、遠隔授業や感染予防のため、グループワークやクラスの間関係づくりが出来ず、オンラインミーティング等で補うようにした。

2. 学生の状況について（グループワーク）

コロナ禍で、来年度も合宿を伴う新入生研修が実施できない可能性を想定し、「入学前教育」「初年次教育」の内容を大きく見直す必要がある。学生の質も変わってきている。どのような内容を組み込むかを考えるにあたり、学生の状況について意見交換を行った。

- ・ 必要なことをしなくてもどうにかなるだろうと思っている
- ・ 読み取る力が弱い
- ・ 受動的である
- ・ 非認知能力が低い→やっても無駄。どうせできない等と思っている。
- ・ やる気がない



- ・ 自己肯定感が低い →反対に高すぎる学生もいる
- ・ 相手の立場に立てない
- ・ 自己中心的（幼児性が高い）である
- ・ 自分を守ろうとする（バリア）
- ・ 周りを見られない
- ・ TPO がわかっていない
- ・ 社会経験が少ない
- ・ グループワークをする力が低い
- ・ 集中力・持続力が低い
- ・ 形だけ、浅い
- ・ 体裁を気にする
- ・ 二極化
- ・ 聞く、書く、要点をまとめる力がない
- ・ 整理が出来ない



3. 学生の状況をもとに、どのように対応していくべきか？

- ・ 個別対応が必要である（私を見て！という学生への対応）
- ・ 「聞く」「書く」「まとめる」を意識した課題が必要である
- ・ 少しずつの成功・達成体験を積めるようにする。
- ・ 異学年との関わりを増やす（学生同士からの刺激を強める）
→学生リーダーの育成が必要
- ・ それぞれの学生にスポットが当たるように取り組む
- ・ 学生に理解できる伝え方を意識する（はっきり伝える。正直に伝える）
- ・

4. まとめ

- ・ 早くに自己認識の機会をつくる必要がある。その為に、入学前教育を充実させていく。また、入学前教育でのテストを通してクラス編成を考え、各学生の能力を理解し、学生指導に生かしていきたい。
- ・ 今後も、学生理解を深め、授業や学生指導を充実させるために、今回のようなグループワーク等を行っていききたい。
- ・ 保育者は観察力が必要なので、そのような力を高めることができる取り組みも行っていけばよいのではないかな。